

疑似体験で 情報モラル学習

ID・パスワードはお金と同じ プリペイドカード 編

携帯ゲーム機のインターネット接続に伴い、ゲーム機でもプリペイドカードを使って電子決済が行えるようになりました。

【ゲーム機等専用カード】

コンビニや量販店で様々なプリペイドカードが販売されていますが、小学生の子どもたちに人気なのが「ニンテンドープリペイドカード」「プレイステーションネットワークカード」でしょう。両者はいわばゲーム専用プリペイドカードともいえます。コンビニエンスストアの目立つ場所に設置されているので認知度も高く、低学年の児童でも使用経験のある子が一定数存在します。

中高生になると iTunes Card・App Store Card や Google Play ギフトカードなどが人気です。最近ではLINEプリペイドカードのようなアプリ専用ともいえるプリペイドカードも登場しています。



今回の教材で取り上げたのが「ニンテンドープリペイドカード」で、購入・使用ともに年齢制限がありません。つまり親に黙ってゲームを購入することができるというわけです。ゲームのダウンロード購入に使われるので、カセットが増えて購入の事実がばれることはありません。また、プリペイドカードで購入したゲームデータはゲーム機が故障した場合使えなくなる可能性があり、別の意味でトラブルの原因となっています。

ニンテンドープリペイドカードの裏面の銀色のシール部分をスクラッチすると16桁のプリペイド番号が現れるので、この番号を『ニンテンドーe ショップ』に登録することによって残高が追加できます。

ニンテンドープリペイド番号を他人に知られてしまい、先に登録されてしまうと、その番

号は使えなくなります。つまりはお金を盗まれたのと同じ状況になるのです。

昨今、子どもたちの間でこの種のトラブルが散見されるようになったのを受けて、この教材が開発されました。2015年夏に大きな話題となった「LINEアカウント乗っ取り問題」もWebmoneyの番号奪取を狙ったものでした。これらの番号はネット上では、現実のお金と同様に扱われます。情報化社会に生きる子どもたちにとって、番号管理の大切さを学んでほしいと思っています。このことがセキュリティ意識の向上につながることでしょう。

被害に遭ったときは

困ったときは専門家へ相談！！お近くの消費生活相談窓口に行きましょう。
経済的被害を受けてしまった場合は、証拠を揃えたうえで警察に連絡しましょう。

【参考 URL】

◆国民生活センター オンラインゲーム 最近の事例

http://www.kokusen.go.jp/soudan_topics/data/game.html

◆消費者庁の

インターネット消費者トラブル

http://www.caa.go.jp/adjustments/internet_trouble/

オンラインゲームトラブル

http://www.caa.go.jp/adjustments/internet_trouble/online.html

決済について

http://www.caa.go.jp/adjustments/internet_trouble/payment.html